

平成24年度

施政方針

2月22日、市議会定例会が開かれ、鳥袋俊夫市長が平成24年度の市政運営の基本姿勢や主要事業の概要などをまとめた施政方針を発表しました。

鳥袋市長は、「市民協働のまちづくり」「市民の安心安全な暮らしの実現」「地域の特色を生かした活性化」「明日を担う人材の育成」をまちづくりの重要課題として位置づけ、各施策を進めていくと決意を述べました。



市長 鳥袋俊夫
お夫 俊袋 とう

市政運営の基本姿勢

本日、第67回うるま市議会定例会が開催されるにあたり、平成24年度予算案をはじめとする各議案の説明に先立ちまして、私の市政運営に対する所信と主要事業の概要を申し上げます。市議会議員並びに市民の皆さまにご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は、市長に就任して以来、「うるま市はひとつ・市民協働のまちづくり」をスローガンに、地域経済の活性化と市民生活の安定を最優先に、3つの目標を掲げ市政運営に取り組んでまいりました。

1つ目の「経済の活性化と失業率の改善」については、雇用情勢が依然として厳しい状況にあることから、本市と沖縄県、金武町、宜野座村で構成する沖縄県環金武湾地域雇用創造協議会を中心に、人材育成及び就業支援に取り組みました。

その成果として、就業者数が千人を上回る見込みであり、特に3次元CAD技術者育成では、合同企業説

明会を開催し、製造業へ多くの就業者を生みました。

また、島しょ地域で事業展開されている「島すば」、コンテンツ産業ではアニメ制作、アジアドラマの日本語字幕作成など、これまで取り組んできた雇用対策が実を結び始めています。

観光振興では、昨年3月に待望の「うるま市観光物産協会」が設立され、エイサーや闘牛など、本市の伝統芸能・文化を生かした観光誘客イベントや県外における物産展が開催されており、これからの観光客誘致や市産品の販路拡大などが期待されています。

2つ目の「教育・子育て支援の拡大」について、まず教育分野では、平成24年4月に新設校の「彩橋小中学校」が開校いたします。開校に向けては、学校統合準備協議会で校名や校章をはじめとする様々な事項について協議・決定が行われ、開校の準備が着々と進んでいます。

また、学校環境の整備といたしまして、中学校校舎の改修工事や体育館及びプールの設計のほか、スクーリングバスの購入など通学環境の向上にも取り組んでいます。

学校名については、多くの応募の中から「彩橋」が選定され、その字の如く7つの小中学校が1つになり、新しく彩られた学校の歴史が創られていくことを期待するとともに、素

晴らしい教育環境になるよう今後とも全力で取り組んでまいります。

その他の教育環境整備としては、田場小学校校舎の増改築事業に取り組んでいるほか、新たに伊波小学校校舎、伊波幼稚園園舎及び具志川中学校体育館の増改築に向けた実施設計を行いました。

また、国の緊急経済対策の一環で交付された「きめ細かな交付金」を活用し、小中学校の消防設備の改修や与那城幼稚園のクーラー設置、安全な食器への変更に伴う具志川第2調理場設備の整備、うるま市民芸術劇場の空調設備の更新を行いました。さらに、「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、市立図書館の図書資料の整備等にも取り組みました。

子育て支援については、保育所入所待機児童対策として1園の認可化に取り組みとともに、認可外保育園においては保育所入所待機児童対策特別事業などを実施し、保育環境の整備を推進しました。

3つ目の「地元企業育成と誘致、そして地産地消」については、中城湾港新港地区の東埠頭整備、航路浚渫等を関係省庁へ強く要請を行い、その結果、同港湾が全国43の重点港湾に指定されました。

昨年11月には、中城湾港新港地区の航路浚渫工事や沖縄県による定期船就航実証実験事業が開始され、さ